

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年9月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104555
法人名	社会福祉法人 城山会
事業所名	グループホーム城山
所在地	鹿児島県鹿児島市長田町32番1号 (電話) 099-219-7211
自己評価作成日	令和2年9月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム城山の魅力は、第一に天然温泉を楽しめることです。また城山の高台にあり、桜島やサマーナイト花火大会が一望できる場所は、入居者様と散歩に出かける際は必ずとっていいほど立ち寄りのお気に入りの散歩コースになっています。

毎日の食事は、手作りの味を大切に、お節料理やお祝い膳、外出時のお弁当やワンプレートランチ、手作りおやつは、入居者様にとっても喜ばれています。他にも、望みを叶える日を設け、馴染みの場所や行ってみたい場所に個別外出支援を行っています。また、新しくドライブの日や六月灯などの行事を設け、外出や楽しむ機会を増やしています。

災害時の対策にも力を入れており、緊急時の食料備蓄や各居室にヘルメットを完備し、地震想定や火災時の避難訓練も法人合同で取り組んでいます。また、町内の防災訓練にも参加し、地域との連携も図っています。今年も、新型コロナウイルス感染症予防対策に徹底して取り組んでいます。職員の知識や技能の向上の為、毎月勉強会を開催し、法人内外の研修にも積極的に参加しています。

グループホーム城山は、医療法人を母体とし、関連施設サービス、居宅系サービスもあり、地域に密着したサービスを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは桜島を望める見晴らしの良い高台の住宅地に位置し、樹木や草花が多い広い園庭は、日当たりが良く散策や外気浴に適した環境にある。商店街や小学校にも近く、法人の介護保険老人施設や特別養護老人ホーム・通所介護施設等と併設されて運営も一体的であって六月灯を始めとする各種の行事や避難訓練、緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が整っている。

年2回は消防署の協力を得て法人全体で避難・消火・通報訓練を行っている。また、地震想定自主訓練ではメディアに報道される事例なども参考に、避難や通報の方法・機器点検等の学習、また、訓練の評価も行うなど職員の防災への意識は非常に高い。

職員育成にも熱心で、マニュアル類は整備され、法人及びホームの研修計画を充実させて実施し、実施後は理解度の確認も行って知識や技能の向上を図っている。必要な資格取得も支援しており、職員間の連携も良好であり、利用者の見守りや日々の関わりを通じて、利用者が生きがいを持って笑顔で過ごせるよう、より良い支援を目指して工夫を重ねている。

管理者や職員は利用者の食事への楽しみをより充実させるために、家族とも話し合いながら利用者の希望の把握に努め、寿司の出前・弁当持参の外出・季節の行事食、郷土料理や手作りおやつを提供など多くの工夫に取り組んでいる。外出やレクリエーションも同様で、多くの工夫に加えて年に1回は利用者個々に「望みを叶える日」を設けて本人が希望する場所に出かけて利用者の楽しみにつなげている。

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、自分たちらしい言葉で作った副理念に基づき、支援を行っている。	法人全体の理念及び基本方針に加え職員作成のホーム独自の理念に沿って、各職員が日々のケア目標も設定し、利用者が地域や家族とつながり、日々を笑顔で過ごせるよう支援している。理念は掲示及び唱和と共に、毎月の職員会議やケア会議では意義や役割を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校の資源回収・交流会や職場体験学習受け入れ、運動会への参加など行っている。地域の防災訓練にも参加している。	現在は感染症予防で交流は自粛しているが、地域の防災訓練や資源ごみの回収、小学校の運動会等へ参加していた。法人の6月灯やホームの敬老会には地域住民や家族の参加があり、職場体験学習や実習生の受け入れ、マッサージや踊りのボランティアの来訪もある。散歩や買い物の際には地域の方と挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小学校の交流会や職場体験学習受け入れ、歯学部や看護学生の実習受け入れ、認知症サポーターとしての学習推進を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・ご家族・民生委員・長寿あんしん相談センターの方に参加して頂き、意見交換を行っているが、今年度はコロナウィルスの感染予防対策のため、入居者様と職員のみで行い、議事録をご家族・長寿あんしん相談センターに送付している。	現在会議は感染症対策で利用者と職員で行われている。従来は利用者や家族・長寿あんしんセンターの職員・民生委員等の参加を得てホームの現況や行事・問題点に関する意見交換のほか、利用者満足度の報告など行われている。防災や感染症等についての話し合い、また、委員からの助言や提案もあり改善に活かされている。内容は職員に周知され家族にも報告されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れや長寿あんしん相談センター・市役所の担当者との連携を取り、助言や指導をいただいている。	長寿あんしんセンターの職員との協力体制の構築や介護相談員の受入は行っている。市の担当者とは訪問や電話・メールでの各種手続き等の際などに、運営や利用者の状況について確認や相談を行い、助言や提案をもらっている。案内される研修会やグループホーム連絡会等にも出席して意見や情報の交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束廃止委員会を設置し、研修や毎月の会議報告を行っている。また、グループホーム独自の勉強会も行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠は行っていない。身体拘束の禁止規定を、職員の目にとまりやすいところに掲示し、理解を深めている。	関連するマニュアルや指針は整備され、高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束に関する勉強会は、法人全体及びホーム内で実施して職員の理解を図りケアへの反映に努めている。家族とも意見交換を行い、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した適切な言葉遣いや対応を心掛け、安全を確保しながら利用者がその人らしく笑顔で暮らせるように工夫して支援に取り組んでいる。また、日中はホームの居室や玄関等の施錠も行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、勉強会を行い、虐待の種類についても職員の目にとまりやすいところに掲示し、意識を高めている。声のかけ方など、職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人やグループホームにて権利擁護の勉強会を行い、制度の理解に努めている。入居者様の中に、後見人制度を利用している方がいる時には、その都度話し合い、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などの説明を行い、同意を得ている。不安や疑問点を確認し、理解・納得して頂けるよう努めている。契約時は、必ず職員二人で立ち会い、より細かな説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日常より、ご家族には面会時等に意見や要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置し、第三者委員会にも報告できる体制をとっている。顧客満足度調査を実施し、意見を反映している。	利用開始時の聞き取りのほか、利用者の思いや意見は日常会話や所作の見守り、また、利用者満足度調査などで把握に努め、家族からは現状は感染症予防で電話及び窓越しの面会であるが、これまでは面会時に加え運営推進会議、行事の際の会話などで聞き取っている。日々の申し送りや毎月の職員会議・ケア会議等を通じて全職員が共有を図り、サービスに具体的に活かせるように努め、家族には来訪時や電話・毎月のお便り等で必要な連絡を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、意見や提案を出す機会を設けている。日頃より、職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りに努めている。	管理者自身が日頃より職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努め、職員との密なコミュニケーションを図っている。日々の申し送りや業務の中、毎月のケア会議で職員の意見や提案を聞き取るほか、必要に応じて個別面談や食事会も企画している。職員の意見や提案は代表者とも検討し、業務や就業環境、サービス内容等の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しや、処遇改善手当や特定処遇改善手当の支給を行っている。残業が少なく、働きやすい環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や事業所内の研修に積極的に参加し、スキルアップに努めている。また、新人職員の日々の業務や夜勤に同行し、指導する機会を作っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議に参加し、他事業所との交流を図っている。今後も積極的に交流を図っていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員がご本人との事前面談を行い、要望・悩み等を聞いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員が自宅等を訪問し、事前面談を行い、ご家族の要望・悩み等を聞いている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員が面談し、ご本人・ご家族と話し合いを行った後、職員の意見を聞き、併設施設の管理職や相談員に相談し、検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様と1日を過ごす中で、喜びや達成感を共に感じたり、昔ながらの行事や料理等を職員に教えてくださっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に、買い物や衣替えなど、ご家族と職員で連携をとっている。また、行事等に参加していただき、お互いの絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の状況を基に、ご本人の馴染みの人や場所等の情報を共有し、ご家族と連携しながら、外出支援につなげたり、手紙や電話の支援を行っている。また、一時帰宅や近隣のドライブなども実施している。	入居時に得た情報の活用や、本人や家族とのふれあいから馴染みの人や場所を把握して支援している。現在は感染症予防で難しいが、家族や友人・知人などの来訪時の支援のほか、家族とも調整して電話や手紙の取り次ぎ、買い物や墓参り・一時帰宅・近隣のドライブ、利用者の趣味、日常の家事等を可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士で、声を掛け合いながら楽しそうに過ごされている。職員も入居者様の関係を観察し、席の配置等検討している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所時、情報を提供したり面会に行ったりしている。退居されたご家族より相談があれば、必要に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活状況を基にし、日常の会話や表情などから、思いや意向の把握に努めている。申し送りや会議にて情報共有し、日常の小さなことでもご本人に選択していただくよう心がけている。	これまでの暮らしの情報や日常の対話、表情、しぐさ、また、定期的なアセスメントからも思いや意向を把握するように努めている。申し送りやケア会議、「1、2階日記」等で共有して家族とも対応を話し合い、趣味や外出も含めて本人のリズムに合わせた支援になるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから話を聞き、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら、日々のケアの中で、ご本人の過ごし方を知り、ご本人のリズムに合わせて出来ることを確認し、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者で話し合い、意見交換を行うことで、入居者様本位の介護計画作成を心がけている。毎月のケア会議で、入居者様一人一人についての気づきを話し合い、介護計画に反映させている。	介護計画は本人・家族とケアマネ及び職員で話し合い、職員の気づきも反映したわかりやすい介護計画を作成している。日常の変化はパソコン情報でも共有し、業務管理日誌や介護経過記録に詳しく記載して統一したケアが行われるよう努めている。定期的なモニタリングやカンファレンス、また、利用者や家族の要望や変化に応じて、主治医や法人の看護師などの関係者とも連携して計画の修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、食事・水分量・排泄・バイタルや日々の様子などを記録し、変化があった場合は、ケア会議などの話し合いと共にプランの見直しを行っている。日々の変化は、パソコン上で申し送りを行い、こまめに確認・共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援・緊急時の入院・合同イベントの参加・外出・外泊、ご家族の相談や状況に応じて自宅訪問なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校や商店などなじみの場所に外出できるように支援している。地域の消防署との連携を図ったり、子どもたちとの交流会を行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医を受診している。往診を希望される方が多く、主治医とこまめに情報共有をしている。通院もご家族や職員にて対応しており、法人の看護師とも連携をとっている。	利用前の受診状況は十分に把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。通院は家族もしくは職員で対応しているが、主治医による定期的な往診が多い。また、法人の看護師及び往診時の看護師とも連携して適切に利用者の健康管理を行い、家族や医師との情報交換も連絡表や電話で確実にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人看護師や往診の看護師に相談しながら、健康管理の支援を行っている。変化が見られた場合は、すぐに報告、指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時には、ご本人の情報を医療機関に提供し、職員もお見舞いに行き、ご家族や病院関係者との情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時「看取りに関する指針」でご本人・ご家族の意向を聞き、それを基に、主治医や看護師、職員で話し合い、可能な限りの支援を行っている。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、利用開始時に利用者と家族に「看取りに関する指針」や「入居時リスク説明書」、「緊急時の対応」等の文書で十分説明して同意を得ている。本人・家族の思いの変化やホームの状況変化などの際には、家族はもとより医師や職員、法人の看護師等の関係者で十分に話し合い、ホームでの可能な限りの支援を行っている。また、カンファレンスやケア会議、外部の研修等で職員のレベルアップ、不安軽減などを図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ご家族に急変時の対応の意向を伺っている。緊急時の蘇生法・AED等の勉強会を行っている。また、緊急時マニュアルを作成している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、消防署の協力を得て、法人全体で避難訓練や消火・通報訓練を行っている。地震時の自主訓練や勉強会も実施し、飲料水や食料の備蓄を行い、年に一度、避難食の体験を行っている。地域の防災訓練に毎年参加している。</p>	<p>火災や自然災害を想定して、年2回は消防署の協力を得て、法人全体で避難・消火・通報訓練を行っている。また、地震に対する自主訓練では事例も参考にして避難方法や通報の学習、訓練後の反省など職員の防災への意識は高い。スプリンクラーや自動通報装置等の設備も充実し点検も行っている。非常時の食料や飲料水、ヘルメット・ラジオ・コンロ等の備品も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強会や会議等で適切な声かけができていないか確認している。トイレの声かけは小声で行ったり、個人的な話などは他者に聞こえない場所で行っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、その時々状況に沿った丁寧な声かけや対応を、申し送りやケア会議等で繰り返し確認して日々実践に努めている。関連マニュアルの整備や研修も行われ、居室や個人記録の保護、実習生や職場体験学習、ボランティアの受入れに際しても適切な対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者様と過ごす時間・会話の中で、入居者様の希望・関心・好みなど感じ取りながら、希望に沿えるよう支援している。洋服やレクリエーションなど、ご本人が選ぶ機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意見を尊重し、希望や体調に合わせ、のんびりした時間を過ごしながら、それぞれ好きな趣味活動などを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人の希望通りの化粧や服装をされている。馴染みの店で、カットや毛染めをされる。コロナ感染予防対策以前は、ボランティアの美容師が月に1回来られていた。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食卓の準備・後片付け等できることを一緒に行っている。また、郷土料理やごちそうの日、手作りおやつを取り入れたり、寿司の出前を頼むなど、食事を楽しんでいただけるよう案を出している。誕生日は、ご本人の希望メニューを提供している。	献立は利用者の好みや栄養バランス、季節感にも配慮し、誕生日には本人希望の料理を提供している。また、寿司の出前や弁当持参の外出、季節の行事食、手作りおやつや郷土料理の提供など、職員が話し合っって多くの工夫に取り組んでいる。利用者にも食卓の準備・後片付け等、個々の力に応じて手伝ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食や水分チェック表に記録し、一日の摂取量を把握している。トロミや刻みなど、ご本人の食べやすい形態にして提供している。さらに、摂取困難な方には、自助食器の使用や、好みの食材・飲み物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・案内を行い、一人では難しい方は職員が介助している。必要に応じて、歯科往診を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、入居者様それぞれに合わせたペースでのトイレ案内を行っている。パット使用の方も、吸収量などご本人に適しているか、毎月のケア会議などで検討している。	職員は連携して利用者の見守りに努め、排泄チェック表・水分チェック表・バイタルノートも活用して個人の習慣や自尊心にも配慮しながら、タイミングのよい声かけに努め可能な限りトイレへ案内している。法人全体の排泄委員会やケア会議等で排泄用品の選択も含めて利用者個々に合った取り組みを話し合い、羞恥心や不安・安全等にも十分に心配りして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給ゼリーや牛乳などを提供し、家事動作やリハビリ体操、個々に合わせた歩行運動などで身体を動かす機会を設け、自然排便を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間はある程度決まっているが、個々の希望になるべく沿って、週2~3回程度、温泉浴を楽しんでいただいている。入浴後には、水分補給や皮膚状態に合わせて軟膏塗布、保湿などを行っている。季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯も提供している。	利用者の体調や安全に配慮しながら、時間帯や湯温なども含めて利用者の希望に沿った柔軟な支援に努め、週に2~3回の温泉浴をゆっくりと楽しんでもらっている。入浴を拒否されるような場合には、言葉かけの工夫や職員の交替、時間帯の変更などで利用者の気分を落ち着かせ、ゆったりと誘導するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事動作や体操やレクリエーションを行い、出来るだけ体を動かして頂いている。午睡の時間を設けている。夜間もそれぞれの生活リズムに合わせて、就寝時間・居室の明るさ・温度・寝具など調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、主治医より説明を受けている。薬が届いた時点でも、薬剤師からの説明を受ける。変更があった場合は、申し送りや記録に残し、職員全員に伝わるようにしている。いつでも確認出来るよう、薬のファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は洗濯・掃除・料理・裁縫などを自発的に行ってくださっている。趣味でハーモニカや読書、歌、踊り、塗り絵、難読漢字、パズルなどされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染対策のため外出を行っていないが、コロナ以前は、地域の小学校の行事や地元のお祭りの参加、初詣、花見、外食などを行っていた。また、望みを叶える日やドライブの日を設け、馴染みの場所や行きたい場所をきいて個別の外出支援も行っていた。	現在は感染症予防のため外出支援はほとんどできていないが、従来は家族とも協力しながら、日常的には散歩や日光浴、買い物、近隣のドライブ、墓参り、一時的な帰宅等を支援している。また、年間計画に沿って地域の朝市や小学校の運動会も含め、初詣・季節の花見・外食など、可能な限り工夫して支援に取り組んでいる。年に1回は利用者個々に「望みを叶える日」を設けて本人が希望する場所にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、個人管理して頂いている。入居時、ご本人やご家族と相談し、お小遣いを金庫にて保管し金銭出納帳をつけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話利用時は、子機を居室に持って行き、プライバシーの配慮を行っている。希望者は携帯電話を所持している。手紙等も自由に書けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾り付けは、季節感を感じられるものを入居者様と一緒に手作りしている。また、行事の写真を掲示し、入居者様が眺めながら楽しそうに会話している姿がみられる。温度・湿度計を設置し、快適に過ごせるよう調整している。カウンターキッチンで、調理の音や匂いがリビングに届き、家庭的な雰囲気である。	ホームは桜島を望める見晴らしの良い高台に位置し、樹木や草花も多く、散策や外気浴が楽しめる。リビングは広く明るく、利用者の動きやすいようにテレビやテーブルなどが置かれている。温度や湿度・清潔感などにも十分配慮され、季節を感じられる花や手作りの作品・行事の写真などが飾られている。リビングでは職員が体操やレクリエーション、季節感のある工作などを工夫して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また、気の合う入居者様同士、リビングの座席やソファで談笑したり寛いだりする姿が毎日見られる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持って来られる方がいたり、思い出の品や大事にしている物を飾ったりして自宅での生活に近づけるようにしている。ご家族の協力が得られにくい時は、ご本人と職員で居室づくりに取り組んでいる。</p>	<p>居室には、利用者が使い慣れた日用品や家具などを自由に持ち込んでもらい、できるだけそれまでの暮らしに近い環境で、また、本人のペースで過ごせるように支援している。ホームからはエアコンやベッド・ダンス・洗面台、必要に応じて滑り止めマットなどが設置されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりや滑り止めマットなどを使用し、入居者様の不安を取り除き、自立支援につなげている。トイレや居室の場所がわかりやすいように、案内板を設置している。毎日、リハビリ体操や歩行運動や家事動作を行い、身体機能の維持に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない